

地域包括支援センターだより

認知症本人の声を聴いて

令和6年8月5日(月)、伯耆町農村環境改善センターで『認知症サポーターステップアップ講座』を開催しました。この講座は南部箕蚊屋広域連合が主催し、連合管内の金融機関や企業、民生児童委員など、お客様や住民の対応に携わる人々38人が受講しました。

講座では、公益社団法人認知症の人と家族の会鳥取県支部代表の吉野立氏の講演と、認知症本人のトークセッションが行なわれました。講演では、認知症と診断されていなくてもなるべく早く地域の仲間と出会い交流することが、落ち込みや引きこもり、孤立を防ぎ、前向きに日常を送るためにも重要であると話されました。

認知症本人のトークセッションでは、本人グループ「山陰ど真ん中」のお二人が登壇し、認知症の診断を受ける前に認知症に関する講座を職場で受けた経験から、診断された後にネガティブなイメージはなく、早く診断されて良かったと感じたことや、同じ立場の人と出会い繋がることで、良い影響を与えていると話されました。

この講座を受け、認知症は誰にでも起こりうる病気であり、認知症を我が事として捉えることがとても重要であると学びました。また、認知症本人の生き活きとした姿を見て、認知症の人や家族が仲間と出会い、つながるための橋渡しにもさらに力を入れて取り組んでいきたいと感じました。



※認知症サポーターステップアップ講座とは、養成講座を受けて認知症サポーターになった方を対象に、知識をさらに深め認知症の人や家族を地域で支える方法を学ぶものです。

認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、できる範囲で認知症の人やその家族を手助けし、温かく見守る「応援者」のことです。

伯耆地域包括支援センターでは、認知症サポーター養成講座や認知症に関する講座を行っています。希望される方はお気軽にご相談ください。

問い合わせ先 伯耆地域包括支援センター（健康対策課 生活相談室内） ☎0859-68-4632

二部集落支援員活動レポート



二部地区の六カ所にある出雲街道道標の補修作業を行いました。木材防腐剤のクレオソートを塗って、茶色、白、赤などの色を重ねていきます。お色直し後は、遠くから見ても目立つ仕上がりになりました。先日も、姫路から出雲街道を歩いているという団体が寄ってくださいました。地域を訪れてくださる方々の目に留まりアピールできれば嬉しいです。

10月19日(土)、今年で第八回となる「ハロウィンイベント」を実施しました。雨の一日となり心配していましたが、工夫を凝らした仮装の可愛い子どもたちが集まりました。かぼちゃの重さ当てクイズ、人気コンテスト、仮装コンテスト、ファッションショー、仮装行列と盛りだくさんのメニューがあり、参加者の歓声と笑顔が溢れるイベントとなりました。

松原 悦子



出雲街道道標の補修整備



ハロウィンイベント